



R. I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2228号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 千葉 慎二 幹事 三田 明宏



広重版画より 三島 朝霧

第2298回例会

2021.3.11晴

司会 秋山恭亮君

ロータリーソング 「我等の生業」
指揮 柴崎恵子君

会長挨拶 副会長 森崎祐治君

津波と地名と日本人

今日は3月11日。東日本大震災からちょうど10年が経ちます。犠牲になられた皆様に改めて心から哀悼の意を表し、また未だ避難生活を送っておられる皆様、復興途上にある皆様にお見舞いと、頑張ってもらいたいというエールを送りたいと思います。さて、この大震災の被害の多くは津波によるものでした。津波の恐ろしさはその圧倒的な押し波と引き波の破壊力です。科学的に言えば津波はその波長と周期が長いことが特徴で周期は短くても2分長いものは1時間以上にもなり、波長は100キロメートルを超す例もあります。一般の波は風による風浪で周期は長いものでも10秒、波長は通常150mくらいです。また津波のスピードは速く東日本大震災の時、宮古では平均時速115kmで沿岸に達しています。この津波は「TSUNAMI」として英語にもなっていますがこの「津」には「興味津々」の意味が「あとからあとから興味が湧いてくる様子」とあるように「次々と連なる」意が含まれていることから「津波」とは「波長が長く連なる大波」と解釈できるそうです。昔の人の津波への理解はほとんど正確であると言えます。日本人は古くから津波を何度も経験しこれを恐れて記録に残し、言い伝えてきています。そしてこの言い伝えの一つが各地に地名として残されています。

地名の研究者である楠原佑介氏は災害地名学に詳しく例えば「倉」や「蔵」は削(く)る=穴をあける、弧を描くように切る、から地面が抉られた地形を指しているそうです。福島県楢葉町には波倉(なみくら)という地名がありこれはまさに波が抉った土地を示しているそうです。有名なところは鎌倉でこれは「釜状の穴倉」であると言っています。13世紀には鎌倉は7度の大きな地震や津波が記録されています。1498年の明応地震で鎌倉の大仏殿が津波で流されたという説もあります。塩釜、釜石も津波由来の地名と考えられます。(釜=嚙マ、津波で嚙み取られたように凹んだ土地を示す)

また、「おな」のつく地名も津波に由来するものがあります。宮城県女川、福島県小名浜は「雄(男)波」の「オナミ」の「ミ」を略し津波を「オナ」と呼んだ名残だと言います。また岩手県宮古市には「女遊戸」、釜石市には「女遊部」と書いて「オナツペ」と呼ぶ集落があるそうで「オナ(津波)が遊水地を作るあたり」と考えられるそうです。こうした「オナ」のつく地名は東日本に13か所確認されているそうです。

地名は災害を含む土地情報の記録とも言えます。津波は、東京湾、相模湾、そして駿河湾にもその記録が残っており、熱海や沼津にも津波は襲っています。地震、津波、噴火、台風など日本人は長い歴史の中でこれら自然災害と闘いながら生き抜いてきました。これで日本が減退することはありませんでしたし、むしろその中からこれに対処する術や知恵を身につけ、日本人の集団意識、強さが培われたと考えることができます。逆境を力に替えて今の日本があると思えば不安や悲観ばかりでなく勇気や希望が湧いてこないでしょうか。「もうこんな日本を出ていきたい。」と言う日本人に私は会ったことがありません。私たち1億2000万人の日本人に受け継がれた「逆境力」を信じましょう。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	43/48	89.58%	45/48	93.75%
今回	42/47	89.36%	会員総数	51名

欠席者 秋元君、桐部君、窪田君、杉崎君、橋本君

贈呈式



地区補助金事業による見晴学園への空気清浄機等の贈呈

2020~2021年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

ロータリーは、機会の扉を開く

幹事報告

幹事 三田明宏君

1. 今後の予定

- ①3月25日(木)呉竹 通常例会 12:30
外部卓話 三島観光協会専務 宮崎 真行氏
- ②4月1日(木)呉竹 通常例会 12:30
卓話 伊丹 秀之君
- ③4月8日(木)呉竹 夜間例会 18:30
担当:国際奉仕委員会
- ④4月22日(木)呉竹 通常例会 12:30
卓話 佐野 宏三君

2. 報告事項

①3月4日(木)の理事・役員会にて、三島ロータリークラブの要請により三島南高校野球部への寄付金(在籍一人当たり千円)を会から拠出することが承認されました。



◆野田君、東日本大震災(3.11)10年目の今日、久し振りの卓話です。明るい話題が少ない中、せめてスマイルで臨みたいものです。空腹の皆様、しばしご辛抱下さいませ。

卓話

「米山梅吉ものがたり」(柴崎由紀著)を読んで

ロータリー情報委員長 野田和秀君

1月14日予定の私の卓話が、2カ月遅れの今日することになりました。これまで1月には、ロータリー情報委員長が、ロータリー理解推進月間ということで、ロータリーに関する情報卓話をするようになっていました。今日はロータリーの決まり事についてではなく、一昨年来山記念館創立50周年式典に参加した際、頂いた掲題の本を読んで印象に残った事を中心に3~4点話をさせて下さい。今年度は、日本最初の東京RCが創立された1920年から100年目に当たり、目下記念誌の発行準備が進んでいるようですね。

* 米山梅吉(以下YUと略す)の生い立ちと20歳代の頃

YUはポール・ハリス(以下PHと略す)と同じ1868年(明治元年)の生まれ。PHは父親の事業の失敗(2回)で家族と離散し、祖父母のところに預けられ養育される。YUは4歳の時、父親(43歳)と死別し、母親の実家のある三島に移り住み、その後米山家の養子として迎えられる。

PHもYUも共に貧しい家庭で無かったので、しっかり教育は受けられたようで、PHは弁護士の資格を取ってから、先輩の話に影響を受け、5年間アメリカ国内の放浪の旅に出ている。その後には英国をはじめ欧州各地を仕事で訪問している。YUは11歳の時、三島に来訪したアメリカのグラント

前大統領と対面し、初めてアメリカという国が脳裏に焼きついたのでは、と思われる。13歳で沼中に入学、15歳の時卒業を待たずに、郷里を出奔し上京。東京で英語を学び、20歳で渡米(8年間在米)25歳の時、シカゴ万博で出品品の解説をしていたそうで、その時の日本人の参加者は200人程とあり、その中に渋沢栄一の名前もありました。

**「新隠居論」を1914年発表(YU46歳のとき)と1920年前後

YUは東京RC設立の6年前頃に「新隠居論」を「実業之日本」に発表している。日本と西洋の隠居の仕方を比較しつつ、西洋的隠居の実践のすすめであるこの「新隠居論」で説かれている報恩・奉仕の思いが、後の東京RCや三井報恩会の設立のベースになっていると思われる。1918年はスペインかぜの第二波が世界的に流行し、その影響もあってか1914年から始まったに第一次世界大戦が終結し、国際連盟が成立した1920年に東京RCが設立される。この年に後藤新平が東京市長に就任し、3年後の9月に関東大震災が勃発し、後藤新平が帝都復興院総裁に就任し、YUは参与に就任とある。この二人の関係はほとんど記述なく不明。震災の前年に大阪RCが二番目に結成されたばかりで、まだまだヨチヨチ歩きの時期に、世界中のRCから義捐金や救援物資が送られてきて、其の額8万9800ドル(現在の140億円ともいわれる)で、日本のRCの会員の意識が図らずも改まり、毎週一回の例会を開くようになったそうである。

***台湾RCと八田與一

YUは東京RCを設立して11年後、台湾に行き台北RCを立ち上げている。そのRCに八田與一が、ダム(烏山頭)完成後の1932年に入会し、その時の卓話の一部「一前略一私はまだRCの目的は十分解らないが、色々な話を承り、ロータリーの精神が(仏教で言う)「自利利他」にあるように、考えさせられまして入会させて頂きました」日本人だからでしょうか、私にはこの言葉がしっくりきますね。

****フジコ・ヘミングとYU

1935年PHが来日し、YUと初顔合わせ、共に67歳でした。その2年後、YUは私財を投じて青山学院緑岡小学校と付属幼稚園を誕生させている。その小学校2期生にフジコ・ヘミングさんがいたということには、本当に驚きました。フジコさん曰く「米山先生は私たち3人(外人の子供)のところへわざわざ歩いてこれ、私たち3人の頭をなでて下さいました。忘れられなかったのは{人にされて嫌なことは、自分もしない}っていつも言っていて、私、子供ながらに感激しました」と。これは、米山梅吉記念館・館報2020秋号に掲載された掲題の本の著者・柴崎由紀さんのインタビュー記事「ピアニスト フジコ・ヘミング氏 米山梅吉を語る」からの抜粋です。

この小学校は保護者による後援会などの援助は一切不要として、学校に全て託すという方針で運営された由、信じて託すというYUの生涯を通じた信託の精神がここにも表れているといわれている。

※会員慶事・表彰は次号に掲載します。(週報担当:森藤 賢)

三島西RCテーマ

ホップ、ステップ
新たな飛躍に向けて足下を見つめてみよう